



地域連携だより

発行：J A 新潟厚生連 小千谷総合病院 患者サポートセンター
〒947-8701 小千谷市大字平沢新田111番地
TEL. 0258-81-1616(直通) FAX. 0258-81-1602(直通)



新年のご挨拶



新潟県厚生連小千谷総合病院 病院長

柳 雅彦

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本院が開院し6年余が経過しましたが、私たちも地域にねざした病院として皆さまの安心安全な医療の拠点となれるよう日々邁進してまいりました。

この中でも2020年初頭よりの新型コロナウイルス感染症の猛威は全世界を駆け巡り、コロナ禍への対策は医療や保健衛生としての範疇を越え経済や政治など全社会的な課題であったことは皆さまご存知のとおりです。当地域でも住民の皆さまのご理解のもと、感染予防に留意した生活スタイルやワクチン接種も多くの方に受けていただくなど、日々の対策にご協力いただきました。私たちも治療のみならず、予防や啓発などにも心を砕いてきた3年間でした。その結果として、昨年5月に新型コロナウイルス感染症も5類感染症へと引き下げられ、ウィズコロナとしてはありますが、ようやく平常な日常が戻ってきた感があります。数字としてふりかえてみますと、新潟県での新型コロナ感染症は発症率・死亡率が全国トップの低さで抑えられたとのこと。皆さまの問題意識の高さに支えられて、予防や治療などの対策が実った結果と思っております。改めて感謝申し上げます。

そのなかで本年はアフターコロナとしての地域医療体制を考慮し、本院の体制整備について検討を進めております。一つは本院の医療入院病床を199床に変更しつつ在宅医療支援体制を強化する方針です。地域の開業医の先生方と協力しながら、訪問診療・在宅看取り・訪問看護の強化や連携をより充実したものとするつもりです。二つめは介護分野としても地域貢献できるように院内併設型の介護医療院を開設するべく体制整備を進めています。小千谷市では初の試みですが、院内併設型ですので医療と介護のシームレスな運用が可能となりますので、比較的介護度が高く施設入所まで期間を要する方などにとって朗報になるものと考えております。

当地域の医療保健福祉のニーズに応じて本院も体制を整備し、これからも皆さまにとって身近な病院としてお役に立てることを喜びと感じ元気に活動に臨む所存です。皆さまのご健康とご健勝を祈念しご挨拶とさせていただきます。今年もよろしく願いたします。



新年のご挨拶

事務長 長谷川 拓史

日頃より先生方には病院へのご協力とご理解をいただき御礼申し上げます。

小千谷総合病院は開院より7年が経過しようとしております。

これも地域の皆様方の多大なご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、新潟県では令和5年1月に「地域包括ケアシステムを支えるための医療機関の機能分化と方向性」（グランドデザインPart2）として、「地域で高度な医療を支える柱となる病院」と「地域包括ケアシステムを支える医療機関」の役割を示し、医療圏域毎に体制整備が進められております。中越医療圏では「地域で高度な医療を支える柱となる病院」は長岡急性期3病院がその役割を担い、小千谷総合病院では「地域包括ケアシステムを支える医療機関」を担うこととなります。脳卒中・急性心筋梗塞等の高度・専門的な治療、手術機能や重症患者の救急受入については、長岡急性期3病院と連携し、当院ではサブアキュート機能（軽・中等症患者の救急受入機能）やポストアキュート機能（長期急性期患者や回復期患者の受入、治療機能）を主な役割とします。当院では「地域包括ケアシステムを支える医療機関」として、一定の地域での救急受入に加え、直接入院の他、転院の受入についても積極的に対応してまいります。また、今後増加が見込まれる多疾患高齢者への適切な医療ケアの提供やスムーズな在宅、介護等との連携を強化してまいります。

医療を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、これからも、小千谷地域の医療の拠点として、地域の皆様より信頼される病院づくりに尽力いたします。引き続き、皆様との連携を深め、小千谷地域の医療の充実に努めて参りますので、本年も小千谷総合病院を何卒よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

看護部長 島川 夏代

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、地域の関係機関の皆様には大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私が看護部長を拝命し、小千谷総合病院に勤務して3年になりました。振り返ると新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応に追われた3年間でした。ワクチン接種が始まった頃でしたので、医療従事者から始まり住民のワクチン接種の協力、陽性者受け入れの体制整備、発熱者のドライブスルーでの検査体制、院内感染防止の徹底など様々な対応が必要でした。この大変な時期を乗り越えられたのも、職員の協力があつたからこそです。新興

感染症に対する不安との戦いの中、職員が本当によく頑張ってくれました。5類に移行の今も医療機関としての対応は続いていますが、地域の病院としての役割を果たしていきたいと思っています。

今年度、看護部では「地域から必要とされる看護部となる」をビジョンに掲げました。そのための私たちの使命は、「目指す地域像に向けた看護の役割を果たす～多職種連携による入退院支援で地域につなぐ～」としました。患者さんのために「断らない、待たせない」をテーマに、入院が必要な方がスムーズに入院できる体制、多職種との連携で切れ目のない入退院支援、安心・安全で質の高い看護の提供、働き続けられる職場環境づくりを目標に取り組んでいます。『温かな心のこもった看護の実践』を看護部の理念に、思いやりの心と謙虚な気持ちで看護を提供し、地域に信頼され、必要とされる看護部を目指していきたいと思っています。

当院の看護部から新たに老人看護専門看護師と感染管理認定看護師が誕生いたしました。更には、特定行為研修修了者が2名、特定看護師として今後の活躍が期待されています。専門的知識・技術を学んだスペシャリストの誕生により、院内の活動はもちろん、今後は地域での活動の幅を広げていくことが可能となります。今まで以上に地域のニーズに合わせた水準の高い看護の提供、病気の予防、健康促進、保健医療福祉の発展に貢献できると期待しております。

今後も小千谷市周辺地域の医療の中心的役割を担う病院の看護部として、皆様の期待に応えられるように努力していきたいと思っています。今後もよろしくお願いいたします。



看護部のキャラクター
「なすことこいまる」



新年のご挨拶

薬剤部長 森 平 真

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が2020年はじめより流行してからすでに3年が経過し、この間各医療機関で様々な対応をされてきたことと思います。2023年5月に感染症法上5類感染症に移行されましたが、依然として収束することなくすぶり続け対応に追われる状況が続き、また、ここ数年あまり流行していなかったインフルエンザ感染も昨年後半よりみられるようになり、こちらへの対応にも追われる状況かと思えます。

しかし、治療に必要な医薬品ですが、新型コロナウイルス感染症の流行と並行して、

各種医薬品での供給調整や供給停止、さらに販売中止となる状況が重なり医療現場を混乱させています。特に、これまで国により使用が促進されてきた後発医薬品でその傾向が強く、先生方の処方対応をより困難にさせてしまっています。我々薬剤師としても早く供給状況が正常にもどることを願いつつも、必要な医薬品の確保について最大限の努力を続け、先生方の処方対応に少しでも協力できるよう努めていきたいと思えます。

近年、社会から求められる薬剤師の役割は変化してきております。対物業務から対人業務へのシフトを進め、より患者さんの近くで行う業務が求められようになりました。さらに、地域包括ケアシステムの中で機能することが求められており、地域の医療機関や薬局との連携がますます重要になってくるかと思えます。地域包括ケアシステムの充実に向け、取り組めるように努めていければと思えます。

今年もよろしくお願ひいたします。

編集後記

地域連携支援部長 家里 裕

新年おめでとうございます。

小千谷総合病院も新しくなって丸7年が経とうとしています。この地域の医療を担う決意で、院長以下全員で頑張っています。

2024年4月より導入される医師働き方改革によりどのような影響がでるのか心配していますが、医師不足に拍車がかからないことを切に願っています。

小千谷総合病院も地域の中核病院として、急性期・慢性期の医療から、長岡市の急性期病院と連携しての回復期医療など医療ニーズに応じた治療を行なっています。高齢者の多い地域の特性もあり、入退院の支援の重要さも認識しています。

疾患が治っても退院までの時間がかかることが多いので、入院時から関係職種の方々に退院に向けた調整を行なってもらい、患者様を中心に考えた最良の医療サービスが受けられるように努めています。

その一環として4月からは介護医療院を新設することになりました。

急性期や回復期から回復した患者様がスムーズに介護が受けられることを地域の施設と共に頑張りたいと思っています。

地域連携支援部としては今まで以上に地域の医療・福祉・介護の連携を密にしたいと考えています。

今年もよろしくお願ひ致します。



前列右より：入院支援Ns 瀧澤、マネージャー 島村
部長 家里、チーフマネージャー 船越
事務 平沢

後列右より：MSW 早見、MSW 小林、退院支援Ns 猪又
退院支援Ns 喜多村、入院支援Ns 宮
MSW 阿部、入院支援Ns 中村



本年もよろしく
お願ひいたします

患者サポートセンター 一岡

